

満濃池展望遊歩道のデザイン

黒島直一^{※1}



1. 概要

この施設は、日本有数の貯水量を誇る香川県の満濃池を眺望するために、国営讃岐まんのう公園内に計画された、車椅子自走可能な遊歩道デッキである。橋を渡り、自然の中を回遊しながら様々な角度から満濃池を眺望することが出来る施設となっている。

地形を十分に読み込み、自然改変を控えたルートを選定し、最大縦断勾配を2%程度に抑えた。最も満濃池をダイナミックに眺望できる展望広場をメインとし、池を垣間見る区間、木陰の中を散策する区間などをシークエンスの変化の中に落とし込み、効果的に公園散策の楽しみを演出している。

遊歩道は木栈橋を中心に園外外周道路を横断する2つの構造物で構成されている。主要構造物となる公園ゲートに向かう外周道路を跨ぐ「希望の橋」は、「自然に溶け込む軽やかなシルエット」というコンセプトの元、ゲート性を意識しすぎず、低コストで自然の木々を連想させるデザインとした。

当初は外周道路に並走する縦断勾配4%の園路と2橋の歩道橋で計画されていたが、線形を見直すところから着手し、自然に馴染んだ現在の遊歩道に至っている。

2. 諸元

《所在地》香川県仲多度郡まんのう町吉野 4243-12(国営讃岐まんのう公園内)

《遊歩道延長/有効幅員》L=473m(希望の橋 37m、木栈橋 396m、函渠 40m)、W=3m(一般部)

《構造》通路部：木栈橋、外周道路横断部：鋼立体Y形橋脚ラーメン橋、ボックスカルバート

《供用開始》2005年4月

3. 要求事項(設計条件、発注者指示事項)

《眺望》日本有数のため池を眺望する良好な視点を有すること

《景観》のどかな里山景観に調和すること、対岸から構造物を満濃池越しに見せないこと

《既設園路》横断構造物周辺にある公園のスイセン畑を極力侵さないこと

《バリアフリー》誰もが利用できること(当時、建設省都市局みんなが利用できる園路縦断勾配=4%以下)

《園内他橋梁との関係》木製トラスがほとんどを占めるため、極端に別な材料や構造を使用しないこと

《経済性》公共構造物として適正な経済性を有すること(景観性重視による著しい悪化は認めない)

4. 技術的特徴

《線形の見直し》

保安林区域が外周道路直近に一部かかることから、当初は縦断勾配4%前後が続く外周道路脇に線形が決められた2橋の橋梁予備設計+園地側の高低差解消施設配置計画が業務内容であったが、保安林区域を視野にいれ、等高線をなぞるようなルートを見出し、外周道路標高の低いところは歩道橋、高いところはボックスカルバートでくぐる構造物に変更した。平坦性も確保できたため、園内でよく目にするベビーカー利用者にも楽しい散策と眺望を提供した。保安林解除手続き期間を考慮した工事工程計画も実施し、現場での大きなトラブルもなく、予定していた時期に供用を開始した。

《公園全体の施設デザインとの整合と差別化を図る歩道橋デザイン》

架橋位置はメインエントランスに向かう園外の外周道路の位置しており、ゲート性が求められたが、透過性が高く空中歩廊のように園内利用者が見えることで公園入口を予感させるデザインとした。アーチほどのゲート性は有していない桁形式を採用しているが、経済的でありながら、それを十分に感じさせている。また、木製トラスの歩道橋がほとんどを占める園内橋梁との調和の観点から採用したウッドデッキは、外周道路は徒歩利用者が極めて少ないことに着目し、床版の排水構造を省略し、長持ちさせる工夫を施した。

《デザイン実施による事業メリットの創出》

1つの歩道橋をボックスカルバートにしたことから大幅なコストダウンを実現した。加えて、エントランス側高低差解消施設の縮小化により、公園の目玉施設の1つであったスイセン畑をすべて保全した。また、眺望だけを目指さず、園内全体に不足していた緑陰の感じられる散策路を実現した。デザイナーとして地形に馴染み、必要最低限な施設配置・デザインにこだわった結果、事業メリットを創出できたと考える。必ずしも「デザイン=コストアップ」ではないことを読者にお伝えし、報文を終えることとする。



【要約】

日本有数の貯水量を誇る香川県の満濃池を眺望するために、国営讃岐まんのう公園内に計画された遊歩道デッキのデザインについて報告する。既設外周道路を橋で渡り、自然の中を回遊しながら様々な角度から満濃池を眺望することができる。メインゲートに向かう外周道路から見える横断歩道橋はゲート性を意識しすぎないなど、里山景観との調和を意識した。出来上がりは自然に馴染んだ遊歩道だが、ここに容易に到達出来たわけではなく、地形の丁寧な読み込み、自然改変を抑えたルート検討、施設デザイン、発注者との度重なる協議などにより実現している。本報分では当初設計条件とデザイン検討結果との相違点、実現までの苦労、デザイナーとして貰った思い、そして獲得した景観・デザイン・コストについて報告する。

※1 大日本コンサルタント株式会社 景観デザイン推進部景観デザイン室 (正会員)